

春一番

先週の月曜日、「昨日、春一番が吹きました」というニュースが流れていました。この言葉を聞くと、「春本番だなあ」と思うのは私だけでしょうか。この“春一番”にはおおまかな定義づけがあります。

立春から春分の間に、日本海に低気圧があって、最大風速がおおむね5 (風速8m/秒) 以上の南風が吹き、昇温した場合、“春一番”が吹いたと認定する。(気象庁)

この“春一番”という言葉、私のイメージとしては、ほのぼのとした感じを受けるのですが、実は強風のため、災害等にも繋がる自然現象なのです。この語源は壱岐島で起こった突風による漁船の転覆事故(1859年3月17日)。この事故で53人の死者を出し、地元の漁師達がこの強い南風を“春一”とか“春一番”と呼んだことからきているとのこと。では、なぜ私の“春一番”のイメージが食い違っているかということ、「キャンデーズのヒット曲(1976年)がきっかけで、気象庁に“春一番”の問い合わせが殺到するようになり、その対応で、気象庁は春一番の定義を決め、昭和26年(1951年)まで遡って春一番が吹いた日を特定し、平年値を作り、『春一番の情報』を発表せざるをえなくなった。そこで、“春一番”という言葉が浸透したことを利用し、防災情報の充実をはかるようにした。」らしいのですが、私は、どうしてもこの“キャンデーズ=春一番”のイメージが強く、“ほのぼの”とか“元気はつらつ”といった陽の印象を持ってしまいます。

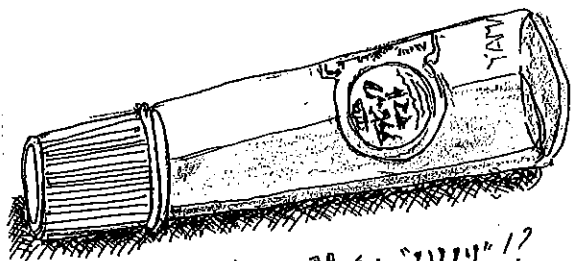
ちなみに、“春二番”、春三番“という言葉もあります。春分まであとしばらくあります。これからは突風が吹く恐れもありますので、十分に気をつけてほしいと思います。



貴重な話

先週の火曜日に1年生を、水曜日に2年生を対象として、「先輩に学ぶ」を実施しました。講師は進路が決定した3年生。これまでの経験をもとに、「今まで頑張ってきたこと」や「今後、どういったことを心掛ければよいか」・・・などなど、多岐にわたり

アドバイスをし、下級生の質問にも的確に答えてくれました。講話を聞いた1年生担当の林田先生は「とても素晴らしかった。参考になったはず。」と感想を述べられ、生徒の感想には「先輩方の勉強方法や1日の勉強時間について学びました。」とか「先輩方のようになりたいです。」などが記されていました。やはり“経験は宝”です。今まで頑張ってきた先輩の経験談は、間違いなく1・2年生の参考になったはず。当然、成功例もそうですが、失敗例ももちろんです。よく「あのとき、ああしていればよかった」「もう少し頑張っていればよかった」といった言葉を耳にします。(私もそう思う時があります。)まさしく『後悔、先に立たず』なのです。だからこそ、これからの1・2年生にとっては失敗談も貴重な話になります。今後も積極的に諸先輩の話聞き、成功例も失敗談も“自分の成功のもと”にしてほしいと思います。



紙に開くと「ワリワリ」!!